

# ウクライナの「フランケン SAM」初の敵機撃墜に成功

David Axe によるストーリー ・ 23 時間



ウクライナの「フランケン SAM」初の敵機撃墜に成功© Forbes JAPAN 提供

1 年前、ウクライナ軍の司令官たちは、運用する旧ソ連製の古い防空システムのミサイル不足を懸念していた。西側諸国が供与を約束したレーダーや地対空ミサイル、対空砲は順次ウクライナに送られていたが、供給ペースは遅かった。

そこでウクライナは隣国ポーランドとチェコに目を向け、両国が数年前に行ったことを実行したようだ。それは、旧ソ連製の防空システムを改造し、西側製のミサイルを発射できるようにすることだ。

当局者はこうしたハイブリッド地対空ミサイル(SAM)システムを「フランケン SAM」と呼んでいる。そのうちのひとつが、初の敵機撃墜に成功した。標的となったのは、ロシア軍のドローン(無人機)のシャヘドだ。

ウクライナの[オレクサンドル・カムイシン戦略産業相によると](#)、この攻撃は 1 月 16 日夜～17 日未明にかけ、射程 9km で行われた。急襲したシャヘド 20 機をフランケン SAM が迎撃し、うち 19 機を撃ち落とすという。

どのフランケン SAM がシャヘドを撃墜したのかは不明だ。フランケン SAM には 3 つのバージョンがある。1 つ目は、米国製の艦対空ミサイル「シースパロー」と旧ソ連製の地対空ミサイルシステム「ブーク」を組み合わせたもの。2 つ目は、米国製の空対空ミサイル「サイドワインダー」を発射する旧ソ連製の別の車両（おそらく「オーサ」）。3 つ目は、米国製の地対空ミサイル「パトリオット」とおそらく旧ソ連製のレーダーの組み合わせだ。

ブークを使用したフランケン SAM は、レーダー誘導のシースパローで約 16km 先の標的を狙えるはずだ。赤外線誘導のサイドワインダーを発射するタイプの射程はやや短いかもしれない。レーダー誘導のパトリオットを使用したパターンは最も射程が長く、約 145km だ。

射程の短い 2 バージョンは昨秋、米国で試験が行われたと伝えられている。射程の長いバージョンは、今も開発中である可能性がある。

3 つ目のバージョンが遅れているのには理由がある。ブークと、おそらくオーサを使ったそれぞれの組み合わせには、前身となるものがある。2012 年、ポーランドの企業が外国のバイヤーに対し、ブークとシースパローの組み合わせを[売り込んでいた](#)。

ポーランドのミサイルメーカー WZU は、ブークの原型の発射機「クブ」とシースパローの最新モデルである発展型シースパローを組み合わせた。だが、射撃管制に同じ改造を施した同系列の発射機が古いシースパローを発射できないわけがない。

同じ頃、チェコの軍需企業レティアが同国軍の試験用にミサイル「アスピーデ」を発射するクブを作った。アスピーデはイタリアが自国版として開発したシースパローだ。

数年後、WZU はドイツ製ミサイル「IRIS-T」を、改修したオーサで試験した。オーサが赤外線誘導の IRIS-T を発射できるなら、サイドワインダーも発射できるはずだ。

ウクライナ軍のフランケン SAM の中で、パトリオットを使ったものは唯一、ゼロから設計する必要がある。また、フランケン SAM の中では最も急を要していないかもしれない。

ウクライナ軍は少なくとも 3 基のパトリオットシステムを運用しており、それぞれレーダーとミサイル 4 発を搭載できる発射機 6 基ほどを備えている。2 基は首都キーウと東部ハルキウを守り、3 基目は南部戦線に沿って移動しながら[ロシア軍の戦闘機を待ち伏せしている](#)。

ウクライナ軍の司令官らは、パトリオットシステムがもっと欲しいに違いない。フランケン SAM のパトリオットでも十分かもしれない。不足が懸念されているのはミサイルであり、発射機ではない。

ウクライナが保有するパトリオットの PAC-2 ミサイルが不足し始めたのは昨年 12 月のことで、ちょうどその頃、米国のウクライナへの軍事支援の資金も底をついた。米下院のロシア寄りの共和党議員たちは、ウクライナへの 610 億ドル(約 9 兆円)の追加支援案の採決を数カ月にわたって拒否してきた。

パトリオットミサイル不足はかなり深刻で、米当局者は昨年末、日本の当局者と前例のない買い戻しを交渉した。米国の在庫を補充するために、そして米国がウクライナにミサイルを供給しやすくするために、日本は米国に何十発ものパトリオットミサイルを輸出することになっている。

([forbes.com](https://forbes.com) [原文](#))